

ユリノキの町から 風の便り 64

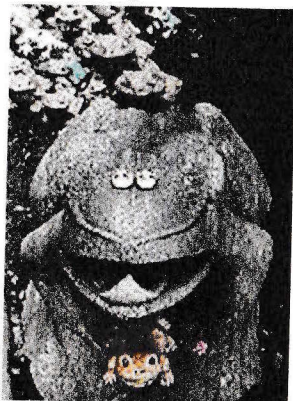
2024 (令和6) /2/1.
八千代市ゆりのき台 辻 秀幸

ホモ・サピエンスへの道

陸に上がった生き物は昆虫へ哺乳類へと進化した。両生類、爬虫類、哺乳類の皆さんをご覧いただこう。といってもほとんど写してないので在庫一掃総濼い。

将門様命 (カエル)

検非違使の現代版、警視庁見学ついでに寄った将門塚(まさかどづか・しょうもんづか)にカエルの置物がたくさん置いてあった。平将門と結びついたのは歌舞伎がきっかけだろうか。願掛けした人が願いの成就のお礼にガマガエルを置くというが、尋常な内容のお願いではなさそうな感じがする。写真の大きなカエルの「目」もカエルです。



将門家蛙 (神頼み綱・物の怪目・将門科)
2019/11/19. 東京・大手町

分身の術 (トカゲ)

似ているけれど地味なのがカナヘビで少し派手なのがトカゲ、というのが私が見分ける基準だが、どちらもトカゲの仲間。先祖は恐竜だと思っていたが、は虫類という括りの中にトカゲとは別に恐竜、また別に首長竜、魚竜、翼竜などのグループがいたということらしい。鳥は恐竜の子孫と言って良いらしい。私の頭中ではコンガラガッテンノドン。

トカゲの特技は忍術分身の術を持っていること。こりゃあかんとなった時、尻尾を切り離す。尻尾はびよこびよこ動いて目立ち、敵の注意を引く、そのすきに逃走。自切した後は新しいしっぽが生える。再生医療だ。ただし骨はできないという。



二ホンカナヘビ (爬虫綱・有鱗目・カナヘビ科) 2017/5/29. 船橋・浜町1.「京葉道路」南法面

細切れにしたどれも元通りになる生き物がいるそうだ。その遺伝子がヒトにも伝わっていたら良かったかもしれない。いや待てよ、そう考えているオレはオレに違いはないが、再生したあっちのオレもそっちのオレもオレだと考えているに違いない。だとすると元々のオレはこのオレではないのか、どのオレなのか。考える葦だ、と深淵な考えに至る前にオレ探しに悩まなければならなくなる。やっぱり今のままなのが良いのかなあ。とオレはとりあえず考えて安心することにする。

野生の叫び (キツネ)

若き頃、北海道ドライブでたまたま撮れた写真。林を抜ける途中で遭遇。動物園ではない。人の姿を恐れていないようだ野生だ。ドライブインで太い鎖につなかれたのも見たが、薄汚れておどおどしていた。自然の中の生き物は「生きる」輝きを感じる。目つきが違う。鶴居村のツルも、ケージの中に保護されているツルとは全く違って



キタキツネ (哺乳綱・ネコ目・イヌ科・アカギツネ種)
1933/3. 北海道・能取岬への途中

ヨーロッパの黒い森 (ヒト?)

白雪姫をかくまい助けた小人たち。日本では妖精と説明されることが多いようだ。お世話になった民生委員さんちの明るい庭に集落をつかった。何で日本の船橋に集団移住したのか。この庭の持ち主の奥さまに訪ねた。うちの亭主がね仕事が減っちゃってね暇なのね、だそうだ。

このグループがもともと住んでいたのは、中世ヨーロッパの黒い森。人々は城壁に囲まれた限られた土地で暮らしていた。暮らせる人数は限られる。城壁から一步出ると深く暗くて怖い森だった。高齢者、病気持ち、いじめ対象はこの森に捨てられた。姥捨山だ。そうした者の中には運よく、あるいは根性で生き延びた者がいた。食べるものを探し怪我や病を克服し雨露に耐え、と奮闘努力したに違いない。魔法使いの誕生だ。そういう人たちとは別に、未知の人類が暮らしていたかもしれない。森に捨てられた白雪姫はそういう人たちに出会ったのだ。化石で見つかったフロレス原人(ホビット)は身長106cm、体重28kgだとされる。七人の小人がそうなのかな。



白雪姫が幸せになれたのは美人だったから、というのは偏見だ。きれいなのは心だ。ということにしておこう。

小妖精 (民話綱・精霊目・小妖精科)

2019/6/16. 船橋・浜町1. 民生委員さん宅庭

「白雪姫」の原題『SNOW WHITE AND THE SEVEN DWARFS』の dwarfs は「差別用語なので person of restricted growth という」としている辞書がある。

Disney もそのことを分かった上で、dwarfs を善人の味方として登場させて、この言葉をやんわりと批判した、とは都合の良い解釈か。

参照:『ジーニアス英和辞典』【こびと】の項

1998-2000 大修館書店

ドア前の駐車場の境目に蒔いた菜の花が咲きました（12月31日）。



知らない車が止まることがあるので、注意喚起になるかと思っただけで種まきでしたが、やっぱり駐車されました。まだ3輪咲いただけでしたので雑草にしか見えなかったのでしょうか。

小岩に住んでいた中学生の時、庭に咲いていた菜の花を味噌汁にちらして吞みました。見ていた母が後日、井戸端会議で息子がねと楽しそうに話していたのを思い出します。

たのを思い出します。

菜の花：菜とは食べる葉っぱのこと。花もつぼみも食べられますが、食べるなら若くて軟らかいうちがよろしいようです。

菜種油：キャノーラ油などになりますが、在来種は食用として食べてしまうので、別種の西洋アブラナから作るそうです。

中学1年生を受け持って間もなく、ナノハナの構造解明のため、花の「分解」を行いました。教室が芳香に満ちました。サクラの時も生徒が大きな枝を用意した教室のドアを開けたとたんに、サクラってこういう香りだったんだと明瞭にわかりました。噓せる、というマイナスのイメージがありますが、ナノハナもサクラもプラスイメージで噓せる寸前。花によっては逃げ出したいくなるのもあるようです。

女性（とは限らない時代になったようです）がよく利用なさる香水も、種類と量と場所をよろしくご配慮いただけるとよろしいのでは、とおそろおそろ記しておきます。



後ろに写っているのが
秘密編集所の秘密の入口（1/22）

風の便り 64号をお送りします

ゆりのき台探索特集をブログで取り上げていただきありがとうございます
溥傑についてのお話し 興味深く拝読しました 兄の溥儀を描いた映画「ラストエンペラー」を見て大変な時代の人だったと興味を持ちました 愛新覚羅という名前をなぜかずいぶん若い頃に知りました 多分愛新覚羅慧生つながりだったと思います なぜ慧生だったのか今では霧の中です

稲毛の浜といえば 私にとっては民間航空発祥の地です 博物館（という名前でしょうか？）に材木で作ったヒコーキ凧のような奈良原式という飛行機が飾ってあるのを見ました 飛行機といえば能登の大地震に続いて起きた羽田での事故 旅客機の方について乗客乗員全員が脱出したことに奇跡と評価されたようです 奇跡であってはならないので パイロットやスッチャデス（オレも古いナ）の訓練を生かした手際は見事でした

年賀状仕舞いにお悩みの様子 私は80歳になったのをきっかけに「これを機に」とかなんとか書いて一斉に年賀状についてはお終いにしました 一生忘れてはいけない恩を受けたかたと連絡を取り続けたい友人との計10人ほどでしょうか については返信の有無にかかわらず続けています 「年賀状仕舞い」は手書きがなくなったことで考え始めました で今もワープロ頼りでのお便りという次第です

ではまた

2024 令和六年二月一日

辻 秀幸